

# 令和7年度 園の教育計画における職員の自己評価集計結果

2026.2.20

みつづかこども園

\*本年度の自己評価の集計結果です。本年度目標を達成したのは①②④⑧の4項目、評価が辛かったのは昨年同様④⑧⑩でしたが、数値はいずれも昨年度から上がり、特に④と⑩は大きく向上しました。先生方がかなり意識していただいたおかげだと思います。達成できなかった項目を中心に、目標や方途・評価の目標値等を検討し、令和8年度の園の経営計画を作成します。

	評価項目	自己評価（○評価理由、●改善点）	評価 (平均) [目標] *R6の 評価
1	たくましく明るい子供の育ちを促す遊びを取り入れたか	<p>○さくら・さくらんぼ体操が取り入れられ、嬉々として取り組む姿があった。／○部屋での遊びの中でわらべうたを取り入れたり、静の動きのさくら・さくらんぼ体操を取り入れて、子どもと一緒に楽しんだ。／○さくら・さくらんぼ体操を楽しく取り組んでいたが、もっと一つ一つの動きを指導しなくてはいけなかったのに、できなかった。毎日、楽しく体を動かしながら、苦手な子も少しずついろいろな動きを習得するのが目的だと思っていたのでいけなかった。／○さくら・さくらんぼ体操やボルダリングを通して、全身の発達を促し、思い切り体を動かせる環境設定を心がけた。／○学年に合わせたサーキットを用意したり、さくら・さくらんぼ体操を取り入れたりすることができた。</p> <p>○園の周辺等に散策に出かける回数が増えた。／○戸外遊びや運動遊びなど日々の保育の中で発達段階に合わせて走る、とぶ、登るなど全身を使った遊びを取り入れ、楽しんで体を動かすことができた。／○戸外へ出られるときは戸外に出て遊び、走る楽しさや追いかけられる楽しさを感じられるよう保育教諭も共につけて遊ぶことが多かった。／○中園庭ではフラフープ、車、シャボン玉などで体を動かす遊びができた。</p> <p>○サーキットなど部屋にはスペースがなく常時設定はできなかったが、トランポリンを購入してもらえたことで、改善ができた。小ホール、大ホールなど使い、できるとよかった。しかし、戸外に出る機会が増え、元気に走り回ることはできた。</p> <p>○歩行が安定している子が多く巧技台で安全に配慮しながら遊ぶことができた。／○身体を動かす遊びが好きだったので、発達に合わせて、平均台やトンネル、滑り台、トランポリンなど全身の動きが促せる粗大運動遊びを取り入れることができた。／○動と静の遊びをバランスよく取り入れ、見守る子どもの人数や場所を連絡していった。／○歩き始めの子には歩く楽しさを感じられるように、両手で支えながら「いっちに、いっちに」と声を掛けながら遊びとして取り入れていくことができた。／○発達に個人差がある年齢だが、個々の状況に合わせて、歩く距離を調節したり、スピードを考慮したりするなどしながら、体の発達を促せるように心がけた。／○一人一人の発達に合わせた遊びを取り入れた。歩ける子は体を使った遊びを、歩く準備をしている子は歩行を促す遊びを提供した。／○歩き始めの子に歩く楽しさを感じてもらうため、両手を握り歩行練習をした。／○ハイハイの子には、自分もハイハイで追いかけて楽しさを感じてもらった。</p> <p>○言葉の発達を促す絵本の読み聞かせから発達に応じて問いかけのある絵本で言葉や発想を引き出せるようにしていった。／○3歳児の発達に合わせて玩具を選んだり、はさみなどの用具を使えるように準備したりしていった。また発達段階を見て玩具の入れ替えもしていった。／○子どもたちの成長に合わせて、遊びの中で体を使える活動を入れていくよう意識したため。</p> <p>○様子を見ながら、その時にできる対応をし、よかったときには担任へ伝えるようにし、今後の参考にしてもらえるようにしている。／○フリーだったので、入ったクラスの活動に合わせ、一緒に体を動かして遊んでいった。／○クラスの先生方に協力はしたが、自力ではできなかった。</p> <p>●さくら・さくらんぼ体操の回数を少しずつ増やしていきたいと思っている。／●さくら・さくらんぼ体操をなかなか取り入れることができなかった。ピアノを練習したい。</p> <p>●器具を多く取り入れて、バリエーションを増やしていきたい。／●遊具をさらに活用していく。／●多年齢の子どもが大人数いるため、個々に対応することが難しかった。来年度の人数等考慮し、玩具の使い方、種類を考えていきたい。</p> <p>●体を使う動きを取り入れた遊びや園外散歩など、体を使った遊びがもっとできるとよかった。</p> <p>●単発的になってしまったので、継続的にできるようにしていきたい。</p> <p>●もっと取り入れたかったが、クラス内の子どもの状況により、あまり取り入れることができないものもあった。事前に話をするなどしてもう少し取り入れればよかった。</p> <p>⇒さくら・さくらんぼ体操をより定着させる。園庭や散歩など戸外で活動する機会をさらに増やしていくことで、体の育ちだけでなく、季節を体感するなどいろいろな育ちに繋げたい。</p>	2.95 [2.9] *2.86 ↑

しま②  
合ナ  
いー  
実年齢  
施や  
姿に  
勢合  
がわ  
せ勢  
たせ  
かた  
に衣  
付服  
くの  
環着  
境脱  
やや  
援助  
食事  
方・  
法排  
を泄  
学に  
年関  
でわ  
話る

○クラスで交流し合う時間を取るようになった。／○今の子どもたちの成長過程を共有し、次はどの段階を目指すかや、その先を見据えて、どこまでもっていきたいかを定期的に意見を出し合っている。／○食事が進まないとき、他チーム担当の保育教諭と一緒に声掛けし終始明るい雰囲気です食事を取ることができていた。／○できる子、できない子、それぞれ個々に合わせて、また成長に合わせて進めていけたと感じる。各担当毎ではあるが、できる子はどの程度まで促すか、話し合ったり見たりしながら行っていった。／○学年での共通意識はできていたと思う。その場その場でできていない子には、やり方を知らせていった。／○保育教諭間で共通理解をし、食事の際のマナーや自分たちで考えて衣服の着脱ができるようその都度声を掛けていった。／○着脱やマナーなど、少しずつ向上していけるように声を掛けていった。クラス内で話し合う機会をもち、意識して行うようになっていった。○着脱やマナーなど、少しずつ向上していけるように声を掛けていった。クラス内で話し合う機会をもち、意識して行うようになっていった。／○自分でズボンやシューズの着脱ができるようにしていった。自分でスプーンを持って左手は食器に添える、食事は20分以内に終わらせる、といったことをクラス内で統一させて実施していった。担当毎に排泄をし、トイレに興味を示した子は無理なくトイレに誘っていった。／○着脱しやすいロッカー配置、食事時の姿勢、トイレの動線など、子どもが主体的に取り組めるようクラスで話し合い、援助方法を考えることができた。○子どもの様子を見ながら、その都度、話し合いをすることができた。／○部屋に食事のマナーを掲示したり、座り方や箸の持ち方をその都度知らせるようにしたりした。

○スプーン食べ、コップ飲みを補助し家庭の協力もあり、スプーン食べ、コップ飲みが上手にできるようになった。

○生活の場面で芽生えた身の回りのことへの興味や今まで積み重ねてきたことを大切にしながら援助した。／○月週案などを参考にしながら、子どもたちと関わったときには、着脱等が身に付くような声掛けや援助をするようにしている。／○できる子に対しては、保育教諭が自然な形で援助していき、一人一人のペースに合わせてズボンの着脱、帽子の準備などを行っていった。／○できないところややりにくいところはそっと援助しながら、自分でできた満足感が味わえるような援助や言葉がけを意識し、やる気に繋げていった。／○衣服や靴下等の着脱のコツを伝えながら、困難なときはさりげなく手伝うことで身の回りのことが自分でできるような援助をした。／○姿勢の保持が難しい子も多いため、その都度声を掛けるようにした。衣服の着脱などもできるだけ見守り、できたという達成感が味わえるようにしていった。／○帽子を自分でかぶったり、靴下を履いたり脱いだりすることを毎日の遊びの中に取り入れた。食事の際は、エプロンケースを運んだり、口の周りを拭くことを一緒に行ったりした。／○一人でズボンははこうとする子には、「先生がお手伝いするね」と声を掛け援助した。

○一人一人の様子を見ながら、その子に合った課題について丁寧に取り組むことができたため。／○一人一人の成長に合わせて食事のマナーを援助した。

○入ったクラスの子どもの発達に合わせて、様子を見ながら援助したり、できたら一緒に喜んだりしていった。どの程度手伝っているか、担任に聞いていった。

●もう少しじっくりと関わる必要のある子に対して、担当保育教諭にその旨を伝えることができなかった。保育教諭間の信頼関係ももっと築けるとよかった。／●定期的に部屋の保育教諭間で話し合う時間を設ける。

●発達差が大きい分、保育者が手を出し過ぎてしまう部分もあったため、自分でやろうとする気持ちを今以上に尊重していきたい。

⇒クラスで確認し合う機会を設定したり、掲示物を工夫したりするなどの努力が実を結び、担当者間の保育内容の差が埋まりつつある。今後もクラス内での交流の機会を定期的に設定し、経験等による差をさらに埋めていきたい。

3.20  
[3.2]  
\*  
3.15  
↑

2 おもいやりのできた表情や仕草から読み取り、伝え返す子どもがの思いたる子か

③ ○表情や仕草から気持ちを読み取り聞いてみることで、言葉で知らせてくれる子やうまく言葉で伝えることができない子には気持ちを代弁しながら本人の気持ちを確認していった。／○子どもの表情やたいで「○○したいのかな？」と代弁したり子どもに寄り添うよう気を付けたりした。／○困っている子、泣いている子などに寄り添い、対話しながら気持ちや思いを言葉で代弁していった。／○言葉にして伝えられない子には、指差しや身振り、片言で伝えようとしていることを受け止めて言葉にして返し、子どもが思いを伝えられる喜びや受け止められる心地よさを感じられるよう接していくよう心がけた。／○未満児は自分の気持ちを表現したり言葉で伝えたりするのが難しいことも多いため、保育教諭が代弁して気持ちを確かめたりスキンシップをとり、子どもに寄り添えるようにしたりした。／○上手に自分の言葉で思いを伝えられない子もまだ多いため、代弁するなどして思いを汲み取る努力をした。／○自分の気持ちを言葉で言い表せない子も多いので、スキンシップを取って安心できるようにしたり、普段とは違う様子があれば、言葉を代弁して思いに寄り添ったりした。／○保育教諭が仲立ちをしていきながら、子どもの気持ちを代弁していった。／○まだ言葉で自分の気持ちを表現できない年齢のため、状況と表情から気持ちを汲み取り、保育教諭が代弁していった。抱っこやおんぶで安心できる環境を作った。

○言葉数の少ない子にはこちらから声を掛けていき、何気ない思いや欲求を引き出していけるようにしている。

○子どもたちが何を伝えたいのか、最後まで話を聞くことができた。／○子どもたちの表情や仕草をつぶさに見て関わり方を工夫する先生が多い。／○0歳児は、まだ片言であったりするものの、伝えようとしているときは、じっくり耳を傾け、伝えたいことを理解することで、満足感や安心感をもつことができるよう心がけている。／○ゆっくり個々に関わり、スキンシップを取ったり、会話を楽しんだりした。気になる様子があれば担任に伝え、普段の様子も聞くようにした。／○常に子どもの様子に気を配り、スキンシップを取っていた。／○子どもたちとの対話を大切に、思いに寄り添ったり表情から汲み取ったりすることを意識した。／○うまく伝えられないときには、子どもの思いを言葉にして確認してみたり、仕草や表情で伝わるときには、思いに寄り添ったりしてこたえることができた。

○全体に気を配り、楽しく遊べていない子に声を掛け、楽しく過ごせるように努力した。／○玩具が取られてしまい悲しい気持ちや自分でやりたいのにできなくて悔しい気持ちに共感して伝えていくことができた。／○表情でどうしたいのかを見て分かったが、5歳児なので自分で言葉で言えるように待つこともあった。言葉で表せない子には、気持ちを言葉で伝えられるよう援助した。

○まだ思いを言葉にすることが難しい年齢であるため、表情、仕草、動き、声のトーンから気持ちを受け止めて、言葉を返すようにしていき、安心感を与えられるようにしていった。

○挨拶や会話を通して、表情を読み取ることを意識していった。

- 未満児は言葉で伝えることが難しい分、気持ちをうまく汲み取ることができなかったのもっと今以上に寄り添って保育したい。
- 西川先生からのご指導はいただけたが、職員同士で互いの保育を見合う園内研が必要である。
- 自分から言いに来れない子に気付いて言葉がけをするように心がけたが、気付いてあげられず、友達から伝えに来てくれることもあった。もっと周りを見るべきだった。

⇒自分の思いの伝え方は、その年齢なりの対応が求められ、個人差も大きい。園児への関わり方について、クラス内で定期的に確認し合ったり、杉山先生のご指導を適切に生かしたり、学年を越えて園内研の形で見合ったりする機会が必要である。

3.21  
[3.3]  
\*3.29  
↓

関④  
わ野  
り菜  
がや  
で花  
きた、  
虫等  
の生  
き物  
の育  
成に  
適し  
た

○散策時に植物等に意図的に触れることで季節感を味わうよう努める姿が増えた。／○園外散歩で見つけた花など声掛けして見る事ができた。／○自然物を見つけ持ち帰りたい思いを大切にするため、散歩バッグを作った。また、カブトムシやクワガタムシを飼育し、餌と一緒に与えたり、水分を掛けたりなどし、小さな命に触れるなどできた。／○土曜保育の戸外遊びのときなどは、自ら見たり触れたり水やりをしたりしながら関わることで、子どもたちも興味を示す様子が見られた。／○戸外遊びの時は、子どもの気付きに共感したり、発見したことを知らせたりした。／○野菜や花の水やり・収穫は夏が暑すぎてできない日もあった。飼育していたメダカは食べられてしまったのか、いなくなってしまった。／○窓の外にとまっている虫に気付いた子どもたちの声に共感し「遊びに来たのかな」、いなくなったときは「お家に御飯食べに行ったのかな」などと無視の気持ちを感じられるような促しをし、想像力を育てていった。／○外に行く機会がなかなか取れなかったが、散歩に行ったときは花や動物を見て興味もてるような言葉かけをしたり、虫などの生き物を虫かごに入れて見せ、近距離で生き物を見られる機会を設けたりした。／○子どもたちが持ってきた虫を観察したり図鑑で調べたりできる環境を設定したりした。また、戸外遊びや散歩の際には、野菜の水やりや草花の観察を行った。／○戸外遊びを多く取り入れ、自然物に触れながら遊べるようにした。子どもたちの声を聞きながら、植物の生長に注目したり、身近な虫にも命があることを伝えたりした。／○戸外遊びや散歩に出かけた際に、草花や虫などを積極的に見つけ、子どもたちに見せたり、触らせたりした。以上児の子が持ってきた昆虫を保育室で見るなどした。／○タマネギやひまわりなどを育てていった。肥料をあげたり、子どもたちと水やりをしたりすることができた。○生き物に興味をもって触ったり、捕まえたりしようとする子どもたちの姿を大切にしつつも、命があるということも同時に伝えるようにした。／○季節の生き物を虫かごに入れて部屋で子どもたちと一緒に観察し、生き物に興味を示せるようにしていった。／○カエルやカタツムリ、セミやチョウチョなど季節ならではの生き物を飼育ケースに入れ、観察したり、花の水やりをしたりと自然とたくさん触れ合える時間を多く確保した。／○夏にはカブトムシとクワガタムシを部屋で飼育し、写真や図鑑も使いながら子どもたちと一緒に学んだり実際に触れたり餌をあげたり木や葉を子どもたちと探して環境を整えたりした。また命が終わってしまったときは、子どもたちと一緒にお墓を作り合掌し、命の尊さを伝えていった。／○0歳児のため育成は難しかったが、お芋掘りのお芋など直接触れたりする機会があった。／○課業や部屋の掲示物などに生き物の情報が多くなった。／○絵本で花や虫、動物を見て、動物の鳴き真似をして関わった。●戸外遊びを増やしたり、写真や絵を身近に設定し、興味や関心につなげていく。●生き物の育成に適した関わりを継続して行うことはできなかった。飼育ケースや花の生長に気付けるような環境を作るようにするとよかった。／●咲いている花や実にとでも興味をもっているため、触れたり遊びに使ったり保存したりすることをもっと多く経験させてあげたいと思った。／●あまり生き物との関わりを取り入れることができなかつたため、今後は取り入れていきたい。捕まえた虫を実際に見てみるなど。／●コーナーを作って観察したり、絵を描いたりできるようにしたが、継続できなかった。コーナーの工夫が必要。

2.81  
[2.6]  
\*2.58  
↑

→屋外での活動において、意識的に動植物に直接的に接する機会を設定する学年が多くなった。園庭や室内で育成できるものの工夫もさらに進めたい。意識的に動植物への関心が高まるような掲示が増えたが、さらに活動が発展するような掲示の工夫も求められる。こうした中で命の大切さや食育に繋がる保育・教育を進めたい。

3 芯  
の  
あ  
る  
子  
に⑤  
認一  
め人  
合一人  
う一人  
機の  
会よ  
をさ  
つが  
く伝  
つわ  
るよ  
りよ  
うし  
うた  
認め  
たり、  
互い

○一人一人得意なものを見つけ、がんばっている姿を褒めたりするように心がけた。／○よさを認め、褒めながら自信を付けていけるように努めていった。／○それぞれの子の得意な遊びを認め褒めたり作品を飾るなどしていた。また、一緒に遊ぼうなど言ったり言ってもらったりしたことに対して、「よかったね」「優しいね」「うれしいね」などの気持ちを伝えていった。／○遊びの中で子どもたちは保育者の言葉をよく聞いているため、小さな挑戦であっても見逃さず、支えながら自信を付けていけるよう配慮した。／○できるようになったことや見てほしいときには、必ず声を掛けてくるので、できる範囲で一人一人と関わり、よさを認め、褒めるようにしている。／○玩具の取り合いなど、トラブルになったときに間に入り、「優しいね。おもちゃ貸してくれたよ。」など、友達同士の関わりを大切に声掛けしてきた。／○一人一人頑張っている姿を見つけていき、褒めたり、一緒に喜んだりするときは、必ず目を見て、笑顔で伝えるよう意識し、嬉しさが感じられるようにしていった。／○何かをしてもらったら「ありがとう」という言葉を子どもたちに対して掛けるよう努めた。また、子どもたちのそういう姿を見かけたときは十分に褒めるようにしていった。○片付けをしてくれた友達に玩具を貸してあげたなど、子どものよさが見られたときに大きな声で褒めた。／○子どもたちのよいところをたくさん見つけ、それを他児にも知らせた。玩具の貸し借りは特に褒めて、それが当たり前になるようにした。／○できたことだけでなく、過程・姿勢・気持ちも認め、声を掛けていった。遊びの中で友達が玩具を貸していたときには、「貸してもらえて嬉しいね」や、順番を待つことができた子には「頑張って待ってたね」などと、みんなの前でさりげなく言葉にしていった。／○上手にできた子を手本にしながら「みんなもやってみよう！」とよいところを広げて発表していくことができた。子どものやる気を認め、よりよくなるよう工夫していった。／○よいところを見つけたら、皆の前で褒めたり「ありがとう」と礼を言ったりした。○遊びや生活の中でできたことやがんばっている姿を認め、本児に伝えた後、周りの子や保育教諭にもその姿を共有し、皆で認めてあげることができた。／○みんなの前で拍手をしてよさを認めることで、自分がやったことに対してうれしさや喜びを感じる表情が多く見られたので今後も続けていきたい。／○それぞれ頑張っている場面では、他の子にも伝わるように褒めたり、できたときは一緒に喜び認めたりした。／○よさをその都度知らせたり、みんなに聞こえるように声を掛けたり、みんなが集まったときに話したりした。／○できたことを大いに褒め、子どもが喜びを感じ自信もてるようにした。周りにいた子には、素敵な子どもの姿を共有することもあった。／○一人一人のよいところについて、周りの友達にも伝え、お互いによさを認め合うことができるようにした。／○よいところを他の子に知らせることで、真似をしようとする子が増え、意識が高まる雰囲気をつくることができた。●一人一人のよさを認め、本児にはもちろん周りの保育教諭や他児に伝えていった。互いに認め合う機会を増やせたらよかった。／●一人一人の得意・不得意を把握できるような関わりを心がけたが、認め合う機会を作れなかった。サークルタイムを生かして取り入れたい。●行動が目立つ子に対して、表面的に捉えず、その子ら示唆を受け入れつついいところ見つけを増やしていくようにする。

3.00  
[3.2]  
\*3.10  
↓

⇒朝の会や帰りの会などで日々みつけたよさやがんばりを認めていく。記録を残すなどして認められる子が偏らないようにし、そうした機会に恵まれない子については意図的に認めることができる事実を生み出すよう努力する。目立たないようなことでも継続的に取り組んでいることや～しないことが素晴らしいというように子どもたちのよさを多面的に捉えるようにしたい。行事などについて、取組の密度などによってはより丁寧に認めていきたい。学年が上がるにつれて、互いに認め合う風土を醸成できるとよい。

めや⑥  
た生相  
か活手  
をのし  
し気持  
よ持  
うち  
とを撫  
し分  
たか  
りろ  
すう  
ると  
姿し  
を認  
め、  
よ  
励  
り  
ま  
よ  
しい  
、遊  
広

○一人一人の気持ちを受け止め、本児の思いを尊重していった。面白い遊びをしている子や自分で自分のことをがんばっている姿を認め、褒めることで周りにも影響していったと思う。／○子どもたちが必要とするものを用意したり、事前に興味もてるように展示したりした。

○玩具を貸してあげた子どもに「どうぞできてすごいな」など声を掛けたりした。／○お片付けなど積極的にやる子を褒め、ありがとう、助かったわなどと伝えた。

／○ごめんね、どうぞ、いいよ の場では、お互い言葉で上手に伝えられないときは、言葉を代弁し、気持ちを伝えるようにしている。／○長年関わっている子は日々の成長が身にしみて分かるので、私自身も嬉しい気持ちで褒めている。／○泣いている子に対して保育教諭が頭を撫でているとそれを見て行き、相手の気持ちに寄り添う姿が見られた。／○頑張っている姿を認めたり、トラブルが生じた際には、話し合いをし、相手はどんな思いなのかを知る機会を作るようにした。／○困っている子に気付いたり、手を差し伸べたりする姿を認めたり、「ありがとう」の気持ちをその都度伝えたりした。／○泣いている子に対して、「どうしたのかな?」「悲しいのかな?」と話しかけ、それを見た子たちが頭を撫でたり、心配したりする環境を大切にしたい。／○友達が泣いているのを見かけると、じっと見たり、頭を撫でたりしている姿が見られるので、気付いたこと自体を認めていき、「優しいね」と励まし、安心と自信に繋げていった。他の子にも聞こえるような声で伝え、広めていった。／○泣いている子がいると頭を撫でている姿を見たとき「ありがとうね」「やさしいね」と声を掛けていた。

○子ども同士のかかわりも増えたことにより口げんかなども増えてきた。様子を見ながら自分たちで解決したり、告げに来る子などそれぞれに励ましながらも相手の気持ちなども伝えていった。／○活動中、子ども同士のトラブルが発生した際、双方の気持ちを受け止めながら話を聞くようにした。／○自分がやられて嫌なことは友達にもやらないことを伝えたり、相手はどう思うか気付いたりできるよう知らせている。／○友達との関わりがうまくできない子には、仲立ちしたり見守ったりしながら進めていった。／○友達との関わりを見守りつつ、保育教諭が仲立ちとなったり、相手の思いを代弁しながら相手の子の気持ちが知れるよう促していった。思いに気付けたときは十分に認め、関わり方を知らせていった。／○玩具を使いたいという気持ちを受け止め、寄り添えるような言葉を掛けるようにした。玩具を譲ることができた子には、大いに褒めた。／○いやだったことを保育教諭に伝えに来る子がまだ多いため、しっかり仲立ちし、自分で伝えるよう促したり、場合によっては声を掛けたりしながら楽しく過ごせるよう努めた。／○トラブルが起きた際には、互いの思いを受け止め、相手の気持ちに近づけるよう一緒に考えたり、自分たちの言葉で伝えたりできるよう援助していった。／○トラブルがあったときは相手の子がどんな気持ちだったのかを代弁したり、お世話をしているときは「優しいね」などと認め、他の子が真似をして楽しんだりできるように一緒に行った。

●トラブルの仲立ちをしていく中で、相手の気持ちに気付くことができるような関わりはできた。しかし、広めていくことができなかったため、これからしていきたい。

●個人差が大きい分、相手の気持ちがかかる子と分からない子のトラブルが多かったと思う。うまく仲立ちをしてみんなで遊べるよう援助していきたい。できる子を手本とし、自分でできた子どもたちが喜ぶよう今後も見守っていきたい。

⇒子どもたちを認める視点として、相手の気持ちを分かろうとしたり創造力を働かせようとしたりすることを意識し、具体的な事実を認め、クラス全体に投げかけ続けることで、子どもたち相互でもそうした評価ができたり、学びたい姿となったりすることを目指したい。

3.09  
[3.2]  
\*3.10  
↓

<p>4 創造豊かな子</p>	<p>⑦ 夢中になって遊べる時間や環境を用意したか</p>	<p>○以上児、未満児それぞれで過ごす時間を増やしたことにより、0歳児はのびのびと、以上児は机上遊びに集中することができた。／○保育教諭が1対1でじっくりと付き合って遊ぶことが難しかった。（時間の余裕がなかった。）／○子どもが夢中になって遊んでいるときは、食事の順番が来てもあえて呼ばず、区切りが来たときに呼び、遊びが途切れないようにした。子どもが集中して遊んでいるときはそっと見守り、必要ときだけ援助していき、安心して過ごせる環境を作っていた。○身体を動かせるよう空間を広く使ったり、遊びに集中しているときには終わらせるのではなく、十分な時間を確保するなど、その時に応じて臨機応変に対応することができた。</p> <p>○コーナーの配置やコーナーの内容設定の工夫により、集中し継続して遊べる空間ができてきた。特に静と動を意識したり、活動内容を明確にしたりする工夫が定着しつつある。／○子どもが今必要としている環境を保育者同士で話し合いながらつくっていった。／○各遊びのコーナーを棚やパーティションで仕切り、広くも狭くもない空間に配慮し、じっくり遊びが楽しめるよう考慮していった。／○子どもたちの「○○したい」という思いを受け止め、遊び込める環境づくりを心がけた。／○一人でじっくり遊びたい子にはサークルで仕切り、安心して遊べる環境を提供した。／○フリーだったので自ら用意することはない。一緒に遊びを楽しんだ。</p> <p>○子どもたちの遊びの様子を見ながら、必要な玩具を増やしたり、コーナーを変えたりして、環境を整えることができた。／○クラスの保育教諭と相談していきながら、クラスの環境構成を考えていった。その時の様子を見て、集中できる玩具を用意できた。</p> <p>○子どもたちの遊びを見ながら、次につながる道具や玩具を加えたり、“やってみたい”と思える素材を用意し、保育教諭も楽しむことで、子どもたちと一緒に夢中になって遊ぶことができた。／○製作や折り紙、お絵描き、ぬり絵など常時できる机や道具を用意した。また、子どもが作ってほしい折り紙を調べながら一緒に作ったりする姿でやりたい気持ちが高まったように感じた。／○集中して遊べる玩具は何かを保育教諭間で話し合い玩具の入れ替えを行った。／○発達段階に応じた遊びや興味をもっていることを見つけ、楽しめるような玩具を手作りして提供してみた。一人が行っているのを見て、同じようにやってみようと指先や頭を使いながら行っていた。／○ままごと遊びに興味をもち始め、エプロン・三角巾を付け、まな板で包丁を使って野菜・果物を切ることを教えながら遊んだ。</p> <p>○朝の会、さくら・さくらんぼ体操、戸外遊び、行事、行事に向けての活動などがたくさんあるときは、あまり集中して遊べず、遊びだしてもすぐに他の活動になることはあった。</p> <p>○西川先生のご指導により、自分も子どもたちと関わりながら遊び、対話を通じて理解を深めることを心がけた。</p> <p>○土曜保育では、大ホールや園庭に出て、普段よりも思い切り体を動かしたり、机上遊びでも道具を十分に使えるようにし、普段と違った環境の中でも不安にならず楽しく遊べるように工夫している。</p> <p>●環境の用意等はクラスの先生にいただいたので、今後はより協力したりアイデアが出るように努力したい。／●さらに活動の発展性を意図した掲示物やコーナー設定を工夫したい。／●夢中になって遊んでいる子がいる中、夢中になれない子がその子のものを壊してしまい、全員ができる環境ではなかったため、コーナーを分けていきたい。／●ままごとや車などの玩具を持って、違うコーナーに行く姿がよく見られ、遊びもマンネリ化してきていると感じるので、子どもたちの姿からヒントを得て、見直していきたい。</p> <p>●遊び込めない子もいたため、もっと遊びに誘ったり興味をもって遊べる玩具がないか検討してもよかったと感じる。／●お気に入りの玩具や夢中になれる遊びを見つけられていない子には声掛けをして、気に入るような遊びを探り共に遊ぶことから初めていく。</p> <p>⇒西川先生のご指導を反映させ、かなり改善が進んだ。今後はさらに子どもたちの活動が発展していくような環境や玩具の用意、時間の運用などの工夫を進めたい。</p>	<p>3.00 [3.2] *3.14 ↓</p>
-----------------	-------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------

イ⑧  
デ多  
ア様  
がな  
生素  
材や  
れる  
用具  
ように  
に触  
環境  
なが  
整え  
たイ  
メ  
ジ  
や  
ア

○製作コーナー一つにしても多様な素材があり、それぞれが自由に選んで自由に遊べるよう環境を整えている。／○製作が好きで、家庭から空き箱が出た場合に持ってきてくれるものの、それでは足りず、ゼリーカップを洗うと使えることを楽しみにしていた。足りないからこそ考える場面が見られ、共感していった。／○子どもたちがわくわくするような手作り玩具を用意した。／○リトミックシフォンなどを目につく場所に置いておくことで自ら使い、いないいないばあを楽しんだり、頭に載せたり、体に付けたりとたくさんのアイデアが生まれていた。／○様々な素材を準備し“つくりたい”という意欲をもてるようにした。／○感触遊びや指先を使った遊びが経験できるよう手作り玩具を用意した。／○製作では、マスキングテープやタンポなど未満児でも扱えるものを使用した。／○子どもたちの様子を見ながら、折り紙、廃材、油性ペン、シール、はさみなどの用具・材料を順に用意し、徐々に自由に使って遊べるようにした。／○製作ワゴンには、多様な素材や用具を用意し、子どもたちがイメージしたものを表現できる環境を整えた。／○積極的に自然に触れ合える活動を取り入れたり、成長に合わせて、製作コーナーを増やしたりして様々な経験ができるようにした。／○月齢に合わせて、ままごとで使う具材の種類を変えていった。音が鳴る玩具なども素材を変えて、いろいろな音が楽しめるようにした。／○新聞紙遊びや色画用紙で作った葉っぱで遊ぶなど、触って違いを感じられるようにしていった。クレヨンやスタンプ遊び、シール貼りなどの製作遊びを積極的に行っていき、想像する力や表現する楽しさを育てていった。／○クレヨンや水性ペン、花紙や折り紙など用途は一緒でも様々な素材を用意し、比較しながら製作に取り組めるようにした。／○製作ワゴンの中で、モールや毛糸なども用意し、いろいろな素材を用意することができた。

○室内に作品や製作途中のものを展示することにより新たに刺激を受けられるようにすることが定着しつつある。／○季節感のあるものや自然や写真も取り入れ、イメージをもちやすいようにした。

○子どもたちが遊びたい、やりたい、ほしいといったことを伝えてきたときには、できる限り応えるようにしている。

○フリーだったので、自ら用意することはないが、階段の季節飾りなどを通して、自分も作ってみたいと思ってもらえるようにしていった。

○クラスの先生に協力はしましたが、自力ではできていない。

●素材や用具は決まったものしか扱えなかった。年齢によっては、できることも限られてはいるが、危険を伴わない範囲でもう少し挑戦できるよう自分なりに調べ、行えるとよかった。／●さらに子どもたちの発想やイメージが膨らむように素材遊びや用具を提供し、育ちに繋げていきたい。／●子どもの年齢に合わせた素材で手作り玩具を用意する。／●製作遊びが好きな子が多く、切った紙やシールなど準備したが、はさみなどは危険もあり、一度に何人も使えないため、使い方を知らせたり、練習したりできなかった。今年度中に1回切りができる子を増やしていきたい。

●製作時間を増やし、様々な素材に触れられるようにする。

●クラスの先生方のアイデアや準備が素晴らしく、見習いたい。

●活動初期の資料だけでなく、子どもたちの発想してきたものをもとにイメージやアイデアがさらに広がるような追加の資料の提示を工夫したい。

●素材棚を廊下で作っていただいたが、まだうまく活用できていないので、どうしたらよいか話し合いたいと思う。

⇒学年によりどのような素材や用具をどのように使うかという目安を立てたい。実施においては強制はせず、自然にそうした素材や用具を使いたくなるような導きがあってもよいのでは。その結果として、学年相当の活動を何らかの形で経験することで、発想や活動の幅が広げられるとよい。

3.09  
[3.0]  
\*2.90  
↑

5	<p>運営について</p> <p>⑨ 運営機構の役割に従い、自分の業務の遂行</p>	<p>○リーダー会が定期的開催されるようになり、各学年の意見を反映した運営ができるようになった。／○同じ役割をもつ保育教諭に声をかけ合い、改善点など話し合いながらできる範囲で行っていったと思う。また、小ホール係では延長保育専属の保育教諭からアイデアや改善点を出してもらい、努めることができたと思う。／○係の仕事や役割分担について、分からない部分は聞きながら行えた。／○同じ役割をもつ保育教諭に声をかけ合い、改善点など話し合いながらできる範囲で行っていったと思う。また、小ホール係では延長保育専属の保育教諭からアイデアや改善点を出してもらい、努めることができたと思う。／○係の仕事や役割分担について、分からない部分は聞きながら行えた。／○分からないことは自分で調べたり、先輩に質問したりして、自分の業務を行うことができたと感じる。／○クラスリーダーとして、クラスの先生と保育内容を相談しながら進めていったと思う。／○自分の役割は何なのかを把握し、同じ役割の人と話し合いをし、分担してやることができた。分からないことは細かく聞いて相談することを意識した。／○同じ係の先生と必要なもの（注文が必要なもの）を話し合うことができた。／○同じ係の先生に自分から声を掛ける。／○自分の係の仕事や役割を把握し、周りの職員に対し、働き掛けることができた。／○提供できない異物混入があったとか、食材の切り方に問題があったといった大きなトラブルがなく、給食提供ができた。量の調整や提供方法も先生と話し合い、その都度丁度よいものになるよう努めた。／○役割を意識し、積極的に行動することができた。／○与えられた業務については、責任をもって仕事をすることができた。／○自分の業務の利点を生かし、よりよい保育となるよう努力してきた。／○園の役割に対して、自分の担当している業務を行い、やり切ることができているため、今後も役割に対して努めていきたい。／○行事等の大きな業務は正規担任の意向に従い、自分は小さな気配りやサポートにつき、子どもの成長を見守る中で気付いた点など知らせていくようにした。／○担当の業務に責任をもち最後までやり遂げた。／○自分の担当業務に関して、責任をもって遂行したつもりではあるが、まだできる部分があったように感じる。／○係の仕事ができていなかった。／○衛生管理に努めた。／○自分自身がその時にできることに取り組み、積極的に協力することができた。／○園内研修の係として、職員の保育に対する知識の向上につながる研修を行った。スケジュールを組み、全職員が研修を受けられるよう配慮した。／○教材倉庫の係として、倉庫内の在庫が切れぬよう確認することができた。／○外園庭の4か月に1度の点検はできたが、手芸係はできなかった。／○クラスの中でやることが多く、他の仕事に手が回らなかった。／○自分なりに精一杯努めようとする気持ちはあるが、体力的に難しいときもある。／●自分の役割を果たしながら相手に配慮する力をもっと養っていく必要があると感じている。／●周りの先生方も積極的にお手伝いしてくださり、もっと今以上に自分が動かなければと思う。／●若い先生たちの思いや考えを知る機会を作りたい。／●自分の役割を意識して意見を言えるようにする。／●他の先生に任せきりになってしまった役割もある。自分でできることを見つけ、もっと積極的に努めるべきだった。／●一人あたりの盛り付け量が分かるように各クラス見本の給食セットを置いて提供する。／●副主幹会を位置付けることが難しかった。／●現状は特定の係からのみ終礼にて提案や連絡があるが、副主幹会やリーダー会、係担当者から職員会で提案することがあってもよいのでは。／</p> <p>⇒4/1の職員会後の係会で年間計画の中でいつ頃どんな活動や打ち合わせが必要かを確認し合う。副主幹会や職員会に係会からの提案時間を設ける。</p>	<p>2.96</p> <p>*2.83</p> <p>↑</p>
	<p>積極的意見運営を目標とした観点に立ち、</p> <p>⑩</p>	<p>○職員会では、できる限り毎月のように発言の機会を設定するようにした。特に給食に関わる内容を位置付けることができた。／○職員会で言うことができた。／○職員会や園内研の中で他の保育教諭の発言から気付いたことが多々あり、自分の意見と照らし合わせながら改善点を見つけていくことができた。／○リーダー会や職員会であまり自分の意見を言えなかった。／○リーダー会議では、自分の思いを伝えたり、園の運営がスムーズに行えるような提案を行った。／○思ったことや気になったことは積極的に意見を述べるのができたと思う。／○終礼や職員会で、今日の給食がどうだったか、切り方や盛り付け量で変更してほしい点があったかなどを聞き、調理に生かすことができた。／○クラスで話し合いながら、リーダーを通して伝えることができたと感じる。／○述べることより気付いた点は自ら行動に移すように心がけた。細かい部分は気付かれていないこともあると思うが、園をよりよくしたい思いは日々もち続けている。／○クラスについては、保育教諭間で意見を出し合うことができたと思うが、園運営に関しては意見を述べることはできなかった。／○職員間で意見を交流し、必要に応じて事務所に伝えることができた。／○積極的にまではいかないが、意見（自分なりの想い）を伝える努力はできた。／○意見は述べているが、いろいろな考えや思いもあり、難しさを感じることもある。／○自分から意見を述べることは少なかった。／○積極的に述べられなかった。／○なかなか自分の意見をはっきりと伝えることができなかった。／●考えはあっても人前で話すことが苦手であるため、人前で話すことを増やしていきたい。／●全職員が自由に意見を出せるような意見箱があるとよい。／●気付いたことがあったら忘れないようにメモを取る。／●すぐに意見を出すのは難しいので、事前に考える時間がほしい。／●人前で話すことが苦手な場面では発言が少なくなってしまうことが課題。園1年目ということもあったので、今後は小さな気付きも共有することを心がけ、積極的に伝えていきたい。／●周りに合わせることの方が多く、あまり自分の意見を言うことは少なかったように感じる。もっと積極的に伝えられるとよい。／●自分の意見も積極的に言える自信をもてるよう学びを増やしていく。／●若い先生たちも含め、少しずつ信頼関係を築けていると感じているので、今までよりもいろいろな面で声を掛け、よりよい園を目指していきたい。／●協調性を大切にしたいと思う。／●自分の意見を述べることがあまりできなかったが、意見に共感したり、よりよくするための対応など考えていくことができたので、今後はもっと意見を述べていきたい。／●積極的に意見を伝えることはできなかったが、クラスや周りの人に確認しつつ、園がよりよくなるよう今後は努力していきたい。／●できることを見つけて取り組んでいったが、なかなか意見は述べられなかった。／●積極的にはなかなか言えないので、自分から話をしていくように努力したい。／●1か月に1度、特別給食として、子どもたちの好きな給食メニューにする。子どもたちの好きな給食は事前に先生たちに聞いてもらう。／</p> <p>⇒副主幹会～クラスリーダー会～職員会という流れで進めていくことで、職員会の内容について、事前に学年で話し合うことができるようにする。職員会で意見を述べる機会をさらに増やしていく。</p>	<p>2.42</p> <p>*2.18</p> <p>↑</p>